

わかすげ

目次

巻頭言 野辺地病院の今
公立野辺地病院院長 三上泰徳 ……1

各診療科紹介 ……2・3・4

平成23年度新採用職員紹介 ……4

各医療技術局紹介 ……5・6・7

外来診療日案内 ……8



題 野辺地病院 山田 芳松 作

わかすげの由来

菅(すげ)は、繁殖力の強い植物で、古来から当地域には菅笠、菅畳、菅枕等々生活に欠かせない貴重なものであった。

当院の看護師寮に「わかすげ寮」と名づけられているように、将来に期待される力強さと若い菅(職員)が地域医療の確保に一層努力することから。

基本理念

- 患者さんの意思を尊重し、信頼される医療を提供します。
- 研鑽に励み、質の高い医療を提供します。
- 保健・福祉と連携し、心あたたまる医療を提供します。



巻頭言

野辺地病院の今

公立野辺地病院院長
三上 泰徳

深刻化する勤務医不足と赤字経営によって、地方の中小自治体医病の存立基盤は揺るいでおり、地域医療の崩壊の危機がいよいよ現実化してきたことは周知の事実である。当院でも平成21年度の不良債務率(資金不足率)が23.1%となり、個別外部監査が入ったことは病院がいよいよドラスチックな改革、すなわち過去にとらわれず病院に働く職員に意識の覚醒と行動の変革が迫られていることを物語っている。求められた平成22年度より向こう5年間の経営健全化計画が示されたが、ほとんど経営改善の兆しがみえず、機能していないのが現状である。さらに患者さんの外来・入院の受診数も右肩下がりで減少しており、止まらない。このままでは、この病院の存亡が早晚問われる事になるだろう。また、「医療の質と透明性、そして効率性」は時代の要請であり、これを過去十数年に渡って無視してきた付けも重い。しかし、病院としても座して死を待つつもりはなく、病院の近代化・効率化は可能な限り進めている。病院の顔である看護師のレベルアップを目指し、病院から認定看護師を誕生させるべく3人の看護師を研修にだし、3人ともすでに認定され活動している。彼らは研修で得た知識を病院内で実践し、さらに何回もセミナーを開催し、その知識を職員に還元している。看護職員のプロフェッショナルリズムが

うまれつつあると確信している。さらに、病院職員の患者さんへの接遇の状況もすこぶる改善したとアンケート調査からは伺える。また、4年前からPACS(画像配信システム・フィルムレス)や病院受付業務を含めた医事会計システムの更新とオーダーシステム、電子カルテ化などの病院IT化も何とか毎年の少ない予算と町村からの援助で、数年の計画で整備を進めてきた。また、県内で初めて採用された最新のフラットパネル採用のH社製の透視台(この機種は当院での使用実績からその後県内の病院でかなり多く採用されていった)やT社製の320列CT(この機種は東北でも心臓や脳専門病院で採用されており、一般診断に使われることは少ない非常に優れた性能をもつ機械である)、など優れた放射線医療機器の導入も大きな支出なしに整備できた。また、病院の根幹をなす中央サプライの高圧蒸気滅菌装置、臨床検査室の生化学・免疫測定装置、いまや聴診器同様の超音波画像診断装置の最新式3台、最も安全で使いやすい最新の人工呼吸器3台なども与えられた予算内で調達し、病院診療の近代化を進めてきた。しかし、肝心の当院の建物は古く、およそ近代病院の体をなしていない。患者さんが道路から向かう玄関通路は斜面であり、屋根付きの場所での患者の乗降も制限され、冬期間の状況は悲惨でさえある。玄関は狭く、玄関ホールも天井が低く暗い。建築当時のこの病院の建築思想は患者目線ではなく、医療を与えてやるという上から目線で設計されたと思えない。現在近隣で新築されている病院の状況とはあまりにかけ離れており、少しでも改善したいと考えている。将来、病院を建て替えるという夢物語がもしであれば、東青、上北地域の町村病院をまとめ上げ、場所は問わないが、研修医も勤務できる300床程度の近代的な中規模病院の建築を検討する必要性を訴えて話を終えたい。

各診療科紹介

内科



診療スタッフ

副院長

中島道子 (なかしまみちこ)
●卒業年:平成3年
●卒業大学:岩手医科大学
●資格など:
弘前大学医学部臨床准教授
日本消化器がん検診学会認定医
日本内科学会
日本消化器内視鏡学会

医長

福土嗣海 (ふくしつぐみ)
●卒業年:平成11年
●卒業大学:弘前大学
●資格など:
日本内科学会認定医
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会

医長

島谷孝司 (しまやこうじ)
●卒業年:平成14年
●卒業大学:弘前大学
●資格など:
日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

診療内容

消化器内科を中心に、内科全般の診療を行っています。

胃・大腸などの消化管疾患や肝・胆道・膵疾患の治療及び消化器がんや悪性リンパ腫に対する化学療法なども行っています。内視鏡検査、腹部超音波検査、X線消化管造影検査ほか、320列HRCT、MRI等による画像診断など。

内視鏡検査でも、一般の胃・大腸内視鏡検査及び内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)の他、超音波内視鏡による診断や内視鏡的治療も積極的に行っています。

内視鏡的治療

- ・胃及び大腸の内視鏡的ポリープ切除術や粘膜切除術
- ・内視鏡的逆行性胆道ドレナージ術(ERBD)
- ・内視鏡的乳頭切開術(EST)や総胆管結石の碎石・排石術
- ・胆道狭窄に対する内視鏡的ステント留置術
- ・内視鏡的食道静脈瘤硬化療法(EIS)
- ・内視鏡的食道静脈結紮術(EVL)
- ・内視鏡的食道ステント留置術
- ・内視鏡的食道拡張術
- ・内視鏡的胃ろう造設術 など

また、消化管出血に対しては、24時間緊急内視鏡検査と治療ができる体制をしいております。

他、経皮経肝胆道ドレナージ術およびステント留置術や肝がんの治療なども随時行っています。

循環器疾患に関しては、一般の心電図検査、負荷心電図、ホルター心電図、心臓超音波検査のほか、320列HRCTによる冠動脈造影CT検査も行っています。また、毎週水曜日の午前中に限りですが、県立中央病院循環器内科医による循環器専門外来を行っております。呼吸器疾患に関しては、一般の胸部X線検査のほか、320列HRCTを用いて、肺病変の精密検査が可能です。ただし、気管支鏡などの特殊な検査は、専門医への紹介となります。

糖尿病に関しては、毎週火曜日・金曜日の午前中に、弘前大学附属病院内分泌内科より糖尿病専門外来を行っております。

神経内科に関しては、隔週の金曜日午後1時から県立中央病院神経内科医による専門外来を行っております。

小児科



診療スタッフ

嘱託医師

千葉力 (ちばちから)
●卒業年:昭和42年
●卒業大学:弘前大学
●主な資格など:
日本小児科学会認定
小児科専門医
日本周産期・
新生児医学会の功労会員
●主な勤務施設:青森市民病院・小児科に31年間
1976(昭和51)年4月から
2007(平成19)年3月まで
そのうち 1985(昭和60)年11月からの
21年5ヶ月間は新生児集中
治療室での新生児専任医師

診療内容

- ①一般小児科で、夜間・休日・入院の診療はなし
入院が必要な場合には他院へ紹介
(月に約2例)
(例、三沢市立三沢病院、十和田市立中央病院、青森市民病院、県立中央病院、弘前大学病院など)
- ②毎週(木)午前中は弘前大学小児科から医師派遣あり
毎月、第1-3週は心臓、第4-5週は腎臓の専門医

週間の外来診療予定と受付時間

一般小児科外来:●月～金:08:30～11:30

●月、火、金:13:00～14:00

●午後の特設外来:13:00～13:30

(水)予防接種(定期、任意ともに)、予約制

(木)乳児健診(4ヶ月児にはBCG接種)、予約制

<注>2011.5～2012.3まではヒブ・ワクチン(ヘモフィルス・インフルエンザ菌)、小児肺炎球菌ワクチン、さらに子宮頸がんワクチンに対する国からの助成により(月、水、木)午後に接種予定の電話予約(休日を除く3日前までに)をしています。野辺地町の方は健康増進センターから発行される予診票を持参すれば2割の経費ですみます。

各診療科紹介

外科



診療スタッフ

院長

三上泰徳 (みかみやすのり)

- 卒業年:昭和53年 ●卒業大学:弘前大学
- 主な資格など:日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医、がん治療認定医・暫定教育医、日本消化器病学会専門医、日本体育協会スポーツドクター、日本医師会認定産業医、検診マンモグラフィー読影認定医師

副院長

小堀宏康 (こほりひろやす)

- 卒業年:昭和63年
- 卒業大学:弘前大学
- 主な資格など:日本外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、検診マンモグラフィー読影認定医師

医療技術局長

鈴木純 (すずきじゆん)

- 卒業年:平成3年
- 卒業大学:弘前大学
- 主な資格など:日本外科学会専門医、検診マンモグラフィー読影認定医師

医長

木村寛 (きむらゆたか)

- 卒業年:平成7年
- 卒業大学:弘前大学
- 主な資格など:日本外科学会専門医、検診マンモグラフィー読影認定医師

診療内容

一般外科・消化器外科の診断と治療

得意分野

消化器癌(大腸がん・胃がん・肝胆膵癌など)の診断と治療、ストーマ手術
乳がんの診断(超音波検査, マンモグラフィー検査, マンモトーム検査等)と治療
甲状腺外科、内視鏡外科手術、超音波検査による診断と治療、消化器癌・乳癌の癌化学療法、緩和医療

外科の紹介

当院は日本外科学会専門医認定施設に認定されております。

外科診療医師担当表

診療日	月	火	水	木	金	土
三上 泰徳	—	○	—	—	—	—
小堀 宏康	—	—	○	—	—	—
鈴木 純	○	—	—	—	○	—
木村 寛	—	—	—	○	—	—

平成22年度診療実績

手術総件数 171例

内訳/全身麻酔例 120例、脊椎麻酔例 16例、局所麻酔例 55例

主な内訳/胃癌 19例、結腸癌 16例、乳癌 12例、直腸癌 6例、膵臓癌 3例、胆管癌 2例、原発性肝癌 2例、転移性肝癌 2例、胆嚢癌 1例、胆石症 17例、虫垂炎 7例、甲状腺・頸部手術 5例、ヘルニア・腹壁手術 24例

歯科・口腔外科



診療スタッフ

医長

古川雅子 (ふるかわまさこ)

- 非常勤医師:小林准教授 弘前大学口腔外科
- 歯科衛生士 2名 ●歯科技工士 1名

診療内容

一般歯科、口腔外科、インプラント
ホワイトニング、矯正(専門医と提携)、小児歯科

診療日

月曜日～金曜日

受付時間

8時15分～11時30分

急患は常時受付 午後は予約のみ

診療時間

午前:8時45分～12時

午後:13時～15時

紹介

毎週木曜日の午前中 小林准教授の回診があります。口腔癌・顎関節症・シェーグレン症候群等の診断、治療(全身麻酔による手術を含む)を行っています。必要があれば、専門ドクターに紹介する体制を整えています。

各診療科紹介

整形外科



診療スタッフ

医療局長

沼沢拓也 (ぬまさわたくや)
 ●卒業年:平成6年 ●卒業大学:弘前大学
 ●主な資格など:日本整形外科学会専門医・
 脊椎脊髄病認定医
 日本脊椎脊髄病学会指導医
 弘前大学大学院医学研究科客員研究員
 日本骨代謝学会会員
 ●得意分野:脊椎脊髄病全般、骨粗しょう症治療

医長

加藤幸三 (かとうこうぞう)
 ●卒業年:平成16年
 ●卒業大学:岩手医科大学
 ●資格など:日本整形外科学会会員
 ●得意分野:外傷全般、股関節治療

診療内容

脊椎・肩関節・股関節・膝関節などの変性疾患の保存および手術治療
 脊椎・上下肢の外傷の保存および手術治療
 骨粗しょう症の診断および治療

得意分野

腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などの腰椎の変性疾患に対する除圧・固定手術治療
 頸部脊髄症や頸椎後縦靭帯骨化症に対する除圧・固定手術治療
 骨粗しょう症による脊椎圧迫骨折に対する保存・手術治療
 変形性股関節症および膝関節症に対する人工関節置換術

整形外科の紹介

当院は日本整形外科学会専門医認定施設に認定されております。

平成23年4月から沼沢が弘前大学より赴任し、5月から加藤が県立あすなろ学園より赴任して、現在2人体制で日々の診療を行っております。

午前一般外来は一部予約制で、新患・再来ともに午前11時までの受付で投薬や注射等の治療を行っております。またけがをされた患者さんについては随時診察・治療を行っております。

平成23年4月より毎週火曜日の午後1時から脊椎専門外来を始めております。脊椎専門外来では、手術前や手術後

の患者さんを中心に一人一人に時間をかけて診察することを心がけております。神経性の強い痛みやしびれのある患者さんに対しては、投薬や神経ブロックなどで痛みを取り除くペインクリニックを数多く行っております。

当科は弘前大学関連施設であることから、弘前大学を含む青森県内の整形外科ドクターと常にコンタクトを取っており、専門治療が必要な患者さんは専門ドクターに紹介する体制を整えております。また患者さんのことを考え、弘前大学はじめ専門ドクターに来ていただいたの手術も数多く行っております。

整形外科週間予定

診療日	月	火	水	木	金
午前	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来 乳児健診	一般外来
午後	手術	脊椎外来 検査	手術	検査	手術

平成22年度診療実績

総手術件数 193件(うち全身麻酔手術 64件)
 主な手術件数/脊椎手術(頸椎、腰椎) 45件
 下肢骨折手術 55件、上肢骨折手術 17件
 人工膝関節置換術 5件、人工股関節置換術 4件

新採用職員紹介

小堀 宏康 (医師)

①弘前大学 昭和63年
 ②色々ありますが、今興味があるのはカメラ、PCオーディオなど
 ③特になし
 ④この規模の病院としてはIT化が進んでいる事
 ⑤まだ着任してから1ヶ月ですが早く病院に慣れ、自分らしく仕事をしていきたいと思っています。



沼沢 拓也 (医師)

①弘前大学 平成6年
 ②旅行、スポーツ観戦
 ③忍耐
 ④旧から新へ移っている
 ⑤上北地域の患者さんのためになる医療を提供したい。



加藤 幸三 (医師)

①岩手医科大学 平成16年
 ②温泉とバイク
 ③一期一会、一生懸命
 ④職員みなさまの朝のあいさつがよいと思う
 ⑤精一杯がんばりますのでよろしくお願い致します。



①出身大学と卒業年度 ②趣味 ③座右の銘 ④野辺地病院の印象 ⑤抱負

田中 裕子 (臨床検査技師)

①青森市 ②ドライブ
 ③七転八起
 ④オーダーリングシステム導入をはじめ、非常に活気づいているという印象を受けます
 ⑤検査技術・知識の向上に、日々努めていきたいと思っています。



千葉 綾香 (理学療法士)

①七戸町(旧天間林村)
 ②音楽鑑賞
 ③なし
 ④南部弁。親せきや知り合いに会う
 ⑤少しでも役に立てるように頑張ります。よろしくお願ひします。



村井 悠成 (看護師)

①六ヶ所村
 ②スノーボード
 ③前向きに
 ④優しいスタッフの皆さん。
 ⑤幼い頃から身近にあった病院ですし、地域に貢献できるようがんばっていききたいです。



①出身地 ②趣味 ③座右の銘 ④野辺地病院の印象 ⑤抱負

各医療技術局紹介

看護局



看護局は、一般病棟が2病棟と療養病棟、外来診療室、訪問看護室、中央手術室、中央材料室等の8単位、看護補助員22名を含み140名で構成されています。簡単に業務の一部を紹介していききたいと思います。

まず正面玄関を入ってすぐ左に総合案内が設置されています。ここには主に看護長が午前中配置され、患者さんの診療の利便を図るとともに相談等に対応しています。

どなたか相談の方が見えたようです。『どうなさいましたか』『野辺地病院はじめてなのですがどこに行ったらいいでしょうか』『受診される患者さん本人でしょうか』『いいえ、少し体が不自由なのでまだ車の中にいます』『それでは私が車椅子で介助致しますので新患受付で手続きをしてください』

診察後血液検査をすることになり、中央処置室へ移動します。処置室では患者誤認防止のため、患者さんにも協力いただき、自分の名前を言ってもらい、確認後処置をするようにしています。

診察、検査の結果で入院が決まると病室に案内します。入院後は患者さんやご家族から基礎情報を伺い、それと同時に個人情報保護に関する院内規定に従い同意内容を説明し、納得後同意書を記入していただきます。内容の一部として①院内での呼び出し②病室のネーム記載③電話の取り次ぎ④面会人の制限などなどあります。基礎情報から、この患者さんは褥瘡が出来かかっているということがわかると、担当の看護師は皮膚・排泄ケア認定看護師へ報告相談し、適切な指導を受け、患者さんに合った手当

を計画することになります。このように特定分野のエキスパートを活用して看護ケアの質の向上に努めています。

又、外来及び入院において皆様よりいただいたご意見に対し、改善するための取り組みについて各病棟に提示しております。

さらに、私達看護師にとっては、後輩の育成も大切な仕事のひとつです。現場の新人教育のほか、大学看護学科の実習や、高校生一日看護体験、中学、高校生の職場体験など患者さんにご協力いただきながら、将来の看護師を育てていくことにも取り組んでいます。

《私達は心のこもった看護で、人々の健康に貢献します》という看護局の理念を常に念頭に置き、保健・福祉と連携し心あたたまる医療を目指し、業務を遂行していきたくと考えています。



栄養科



当院栄養科は、患者様のお食事を衛生的且つ安全に、医師の指示により病態に合わせた食事を提供しています。また、患者様の栄養状態や嗜好を把握し、必要な栄養量が確保されるよう努めております。

入院中のお食事について

■食事時間

朝食7:30 昼食12:00 夕食18:00

■食事の内容

お食事は、保温食器を使用し、温かく召し上がって頂けるよう工夫しています。

季節の食材を使用し、家庭料理を中心に、時には行事食や郷土料理を味わっていただいております。また病気に合ったお食事を提供しているため、味付けは薄味となっております。[治療上問題なくとも塩分は10g以下(厚生労働省指導)となっておりますのでご理解ください]

各医療技術局紹介

臨床検査科



みなさんが具合が悪くなって病院に行った時、お医者さんは正しい診断をするために患者さんの体の状態を知らなければなりません。採血されたり、尿を紙コップに入れて提出したことはありませんか。“臨床検査”とは？血液検査で体のいろいろな成分を分析すること？心電図で心臓の動きをみること？肝炎や新型インフルエンザにかかっているか調べる？これらは全て臨床検査です。

これらは体から発する様々な情報を確認し、その結果に基づいて診断が行われ、治療に結びつく重要な作業なのです。現在の医療は客観的なデータに基づく医療がなされていて、臨床検査は診断・治療にとって欠かすことのできないもの

なっています。検査科では臨床に役立つ数多くの検査を実施し、医師を始め各医療スタッフと共に患者様中心の医療に貢献できるよう努力をしています。また、診察時に当日の検査結果をもとに医師の診断ができるように30分から1時間以内の迅速検査を実施しています。検査値が患者様の生死に関わるような異常な結果もしくは、データが直ちに治療に直結する結果の場合、緊急異常値(パニック値)として直ちに主治医に報告できるように体制を整えています。休日・夜間の緊急検査は携帯電話拘束当番制で24時間体制をとり、臨床検査技師免許を有する6名で対応しています。検査の受け方(検査時の注意)検査科は二ヶ所に分かれており、一つは中央棟2階に心電図など患者様からの情報を直接測定する生理検査室と患者様から採取された血液、尿、便、痰はダムウェータ(搬送エレベーター)で1階(中央棟階段を降りた所)の検体検査室に運ばれます。検査の前は、検尿がある場合がありますので、トイレは少し我慢して来院して下さい。

平成18年2月に自動血球計数装置(血液検査)が導入され、また、平成22年3月には臨床検査情報処理システムCLALIS JCS-50Lを中心に、自動溶血機構付自動分析装置(生化学検査)及び全自動免疫測定装置(免疫・血清検査)等17分で測定可能機器が導入されました。また、病院全体としてオーダリングシステム化が大きく前進し、臨床現場の要望を可能な限り反映できるようになりました。さらに、細菌検査においては、自動細菌検査装置を常備し、食中毒起炎菌検出、耐性菌検出、院内感染対策・感染情報の提供なども行っており充実しております。安心して当院を受診し検査されることをお勧めします。

診療放射線科



診療放射線科は画像診断を支援する部門として画像情報の提供や画像データ通信に携わっています。

スタッフは診療放射線技師7名(女性1名)、受付1名からなっています。

業務は各種X線撮影、透視撮影、CT検査、MRI検査、骨密度測定、病室でのポータブル撮影、歯科撮影などで計13台の放射線機器を扱っています。

夜間や休日は携帯での呼び出しで急患に対応しています。

認定技師は、検診マンモグラフィ A評価認定技師2名、肺がんCT検診認定技師1名となっていますが今後各種認定にどんどんチャレンジしていきたいと考えています。

平成22年7月のPACS導入に伴い念願のフィルムレスが実現し平成23年5月には遠隔読影が開始されました。画像データの送受信やCD-R書きこみ、読影レポートの受信など業務内容も広がりその責任も大きなものになってきました。

ドック、検診においては胸部X線撮影、胃X線造影検査、マンモグラフィ、頭部MRI低線量肺がんCT検診、冠動脈CT(心臓)を担当しています。

将来にむけて大腸CT検査の準備も行なっています。

乳癌検診では、マンモグラフィも超音波検査も女性スタッフが対応しますので気軽に受けたいと思います。

又、平成22年3月に県内初導入された320列CTを使用し息止め2秒以下でぎりぎりまで被ばくを抑えた肺や心臓の検査もおこなっています

胸部X線写真では見えない早期の肺がんもCT検診で容易に見られるようになり現在最も有効な肺がん検診手段として全国の多くの施設で実施され始めています。

320列CTを使用して低線量肺がん検診と心臓ドック両方を行なっている施設は全国でもほとんど例がありません。是非この機会に野辺地病院をご利用くださいますようお願いいたします。

私たち診療放射線科スタッフも細心の注意をもって安全かつ安心な検査を患者さまに提供できるように日々努力していきたいと考えております。

各医療技術局紹介

薬剤科



■一般調剤業務(注射薬業務含む)

飲み合わせの悪い薬や、効果が同様な薬が処方されていないかなど、処方せん記載内容を確認し調剤しています。

注射薬は一般に効果が強く、その使い方には特に注意が必要です。最近は注射薬も内服薬と同様に、薬剤師が処方せんの内容を確認した上で取り揃えています。

■製剤業務

院内製剤は治療や処置に必要なだが市販されていない、市販されていても規格や剤形が異なったり、安全性の面から特に用事調製の必要とされる製品を院内で調製しています。

■外来抗がん剤調製業務(外来化学療法)

化学療法は、最近まで入院で行われることが一般的でしたが、抗がん剤や経口抗菌薬・制吐薬等の支持療法が進歩して、外来で行われることが多くなってきています。薬剤師は、薬剤の取り揃え、投与量・投与スケジュール(投与順序・投与速度)・投与経路等のレジメ管理、治療歴、現在の状態などを確認し薬剤を無菌調製しています。

■薬剤管理指導業務(病棟服薬指導)

薬剤師は病棟に出向き、患者様の体質やアレルギー歴、これまでの医薬品の使用状況や服薬状況を確認し、実際の医薬品の使用状況や保管状況、使用医薬品の効果や副作用をモニタリングし、その情報から、医師、看護師と協力し、患者様にとって最も適切な薬物療法を提供しています。

■薬品管理業務

薬剤科・病棟内にある、注射・内服薬の品質が適切に保たれている期限切れがないか、適切な保管をしているかなど、医薬品の管理をしています。

■麻薬及び向精神薬管理業務

がん疼痛治療、抗不安、睡眠鎮静、鎮痛等で麻薬、向精神薬が用いられています。その乱用、依存による危険性は重大です。そのため、麻薬及び向精神薬・覚せい剤の管理等を含む取り扱い、一般の医薬品と異なり「麻薬及び向精神薬取締法」「覚せい剤取締法」によりさまざまな規制を受け、厳格に管理しています。

■血液製剤管理業務

輸血を含め血液製剤の供給・保管、使用に関する記録の保管と血液製剤に関する必要な情報の提供をおこなっています。

■医薬品情報管理業務

医薬品は、有効性と副作用を十分確認した上で発売されます。しかし、発売後多くの患者さんに使用されることにより、それまで分からなかった副作用や新しい効果が発見されたりすることがあります。多くの文献からこれらの情報を収集し、できるだけ早く医師に伝え、薬が適正に使われるよう協力しています。

■医薬品安全管理業務

医療行為中に発生するエラーの約半分は、薬剤投与に関連したものとされています。薬剤師は、医薬品安全管理責任者として Medikation エラー防止のために問題分析と解決方法の取り組み、薬剤に関する知識の取得、医薬品の安全使用の推進に取り組んでいます。また、院外で発生したエラー事例報告等を院内に発信し、再発防止をはかっています。

■糖尿病療養指導業務

糖尿病療養指導士として専門的な知識のある薬剤師が、外来と入院患者様にインスリン、簡易血糖測定器の導入指導・確認指導、糖尿病薬の服薬指導を行っています。

リハビリテーション科



みなさんこんにちは。リハビリテーション科の紹介をしたいと思います。今でこそ「リハビリ」という言葉が日常的に聞かれるようになって久しいですが、当院でも25年以上になります。昔は整形外科治療の後のマッサージや歩行練習が主で、「後療法」と言われていた時代もありますが、今では様々な治療手段が含まれ、手術前から開始するなど早期から行なうこともあり、チーム医療の一端を担っています。

当院では、理学療法(略してPT)と作業療法(OT)を行なっています。理学療法は手足の筋力をつけたり、関節がスムーズに動くようにしたり、全身的な運動や歩行練習を行ないます。脳卒中や骨折の後などがそれにあたります。作業療法では手の怪我の後や巧緻性を高めたりしています。また腰痛の場合のように暖めたり、電気や牽引療法を行なって痛みを和らげることも行なうこともあります。言語療法

(ST)は行なっていません。

リハビリは医師が必要と判断した場合に、医師からの指示があり、その指示に基づいて実施しています。当院では整形外科の医師が判断しております。リハビリの希望があるようでしたら整形外科を受診の上で相談をお願いいたします。ただ、厚生労働省の指導によりリハビリの実施期間について規定ができ、必ずしもご希望に添えない場合も出てきております。

スタッフは、理学療法が2名、作業療法が1名の計3名で担当しており、0歳から90歳代までとかなり幅があり、それぞれのニーズに合わせて進めております。昨年度は一日平均38人の方が利用されました。

私達は、腰痛や五十肩などの痛みに対する治療を担ったり、整形外科の治療計画の一部を担当したり、脳卒中の回復や歩行を進めたり、脳性麻痺など成長とともにかわっていくなど、たくさんの側面があります。最近では介護保険でもリハビリが開始となり、ますます必要とする人が増えております。また、障害の回復には時間がかかるため、毎日のリハビリの継続が重要となります。私達は、できるだけ皆様の援助をしながら回復の励ましとなりますように努力していきたいと考えております。

そして、かつて当科を利用された方たちと、後日に元気なお姿をお見かけすることは本当にうれしいもので、それを励みに日々の業務に取り組んでいきたいと考えております。どうぞ、スタッフを見かけましたら声をかけてください。一緒にがんばって生きましょう。

外来診療日案内 ●印は診療日です。 平成23年6月20日より

☆ 受付時間は新患・再来いづれも8時15分から11時30分までとなっております。
 ☆ 各科によって受付時間は異なることもあります。詳しくは外来診療日案内備考をご覧ください。

科名	診療日					備考
	月	火	水	木	金	
内科	●	●	●	●	●	禁煙外来診療(月曜日から金曜日)
神経内科外来					●	第1・3金曜日 受付は13時から15時まで
糖尿病外来		●			●	
循環器外来			●			水曜日 県病より午前のみ
小児科	●	●	●	●	●	受付 ●午前/月曜日から金曜日 11時30分まで ●午後/月・火・金曜日 13時から14時まで 夜間・休日等の診療及び入院は対応できません。 予防接種(水)・乳児健診(木)は予約制となります。
外科	●	●	●	●	●	乳腺外来診療(月曜日から金曜日) 受付は10時30分まで ストーマ外来 第2・4金曜日 予約制となります。
皮膚科	●		●	●		受付は8時15分から11時30分まで 診察開始 月・木曜日(9時) 水曜日(9時30分)
整形外科	●	●	●	●	●	受付は11時まで 脊椎専門外来 毎火曜日13時から16時まで(予約制) 木曜日 小児特殊外来(股関節脱臼検診)
産婦人科		●		●		火・木曜日 受付8時15分から11時まで 産科については、常勤医師不在となるため休診となります。 午後は医師不在となります。
耳鼻咽喉科	●	●				受付は11時まで 処置の受付 水～金曜日の10時まで
眼科	●	●			●	受付は11時まで
脳神経外科		●		●		火曜日・木曜日(第1・3・5) 受付は10時30分まで
泌尿器科					●	受付8時30分から11時30分まで
メンタル・クリニック		●				受付は12時30分から14時30分まで(隔週:変更あり) 診察は13時から15時まで 新患は予約制となります。
歯科口腔科	●	●	●	●	●	新患受付(11時30分まで)
検診センター	●	●	●	●	●	一般健診は8時15分から11時30分まで 宿泊・日帰りドック・脳ドック・ 乳がんドック・肺がんドック(予約制)

北部上北広域事務組合 公立野辺地病院 〒039-3141 青森県上北郡野辺地町鳴沢9-12
 電話(代) 0175-64-3211 FAX 0175-64-5571(総務企画グループ)・0175-64-5590(医事グループ)
 ホームページ <http://hospital-noheji-aomori.jp/>

平成23年8月発行 広報「わかすげ」第17号

●発行/北部上北広域事務組合 公立野辺地病院

〒039-3141 青森県上北郡野辺地町鳴沢9-12

●印刷・製本/青森コロニー印刷

